

## めざせ!!子ども森林インストラクターin 埼玉 2023

### 「国の特別天然記念物サクラソウ自生地と彩湖で生きものを探せ!!」

4月1日、9時30分田島ヶ原サクラソウ自生地石碑前集合で受付・健康チェックを行う。気温も上がり、絶好のハイキング日よりだ。小学生8名、乳児1名、保護者10名の参加となった。スタッフの紹介の後、参加者に自己紹介と好きな食べ物を言ってもらおう。今回3名の女の子が子ども森林インストラクターとなったので初仕事として、久保リーダーが作ったドングリのストラップ、さいたま市から貰ったサクラソウの缶バッチ、観察に使う虫メガネを、プレゼンターになって皆さんに配ってもらった。田島ヶ原の歴史やサクラソウ自生地の説明を行い、サクラソウ自生地第一指定地から出発だ。

子供達の首からは、いきものビンゴのボードが掛かっている。ボードには『サクラソウ』、『アマナ』、『トリ』、『スマレ』、『ノウルシ』、『タンポポ』、『ジロボウエンゴサク』、『サクラ』、『ヒキノカサ』の写真が並んでおり、見つけたらボールペンで丸をしていく。最初に丸をつけたのは、サクラソウだ。花の真ん中に丸いめしべが出ていると長花柱花、出ていないと短花柱花で、2種類があって初めて受精することを学ぶ。ヒキノカサは蛙が花を傘にしたという名の由来、ノウルシは白い汁を出すのが名の由来だ。伊勢地方ではジロボウエンゴサクを次郎坊と呼び、スマレを太郎坊と呼んでいた。ジロボウエンゴサクとスマレの花の距を引っ掛け、引っ張り合いをして、子供達が遊んでいたようだ。アマナは花が終わっていたので葉っぱを触ってもらい耳たぶの様な触感を体験した。根が甘いのでアマナだ。スマレはノジスマレとツボスマレ、タンポポはカントウタンポポやシロバナタンポポを観察する。途中サクラソウと、桜の木と、さくらそう水門が一直線に並ぶアングルがあり写真を撮った。途中の鴨川でダイサギを2匹発見しトリにも丸を付けた。

第二指定地では桜の木が満開で桜の花びらがサクラソウの花びらと構造的に違う話やソメイヨシノは遺伝子が皆同じなので一斉に咲くことを説明した。

お腹もすいてきたのでシャリンバイに囲まれたさくら草公園中央で待ちに待った昼食をとる。昼食後準備していたブナの実やテーダマツのマツボックリと3葉の葉について話をする。ハゼの木の葉っぱに虫メガネで光を当てるとロウが溶けて字が書ける実験も行った。また、ニガキの小枝をかんで「苦味」を感じてもらった。



彩湖ではダイサギ、オオバンなどをフィールドスコープで観察してもらった。彩湖は人造湖で治水、利水、環境保全の目的で作られた説明を行う。トイレ休憩をはさみ遊具のある公園で少し遊んだ。

第一指定地に戻り、体操をし、アンケートを書いてもらい、14時20分に解散した。最後にスタッフだけで集まり、振り返りミーティングを行った。天気にも恵まれ、子供達、保護者の方々も有意義な一日になったと思う。



彩湖へ行く途中、第一指定地石碑前で、記念写真。

(報告:西田)